

広報TSB

第8号

平成27年度 後期

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

節目を迎えた短大

東北生活文化大学短期大学部

生活文化学科長 松尾 広



短期大学部について書かせていただきます。
平成二十七年、短大には大きな二つの出来事がありました。
ひとつは本学にとって二度目の外部評価（第三者評価）を受けたことです。これは、教育基本法で大学・短大に義務付けられたもので、七年に一度受けなければなりません。七年前と同じく一般財団法人短期大学基準協会の機関別評価を受け、協会が定める短期大学評価基準を満たしており本学は適格であると認定されました。
短期大学基準協会では「建学の精神と教育の効果」「教育課程と学生支援」「教育資源と財的資源」「リーダーシップとガバナンス」の四つの基準について評価を行います。本学の建学の精神「高い知識と技術を修め、常に文化創造に寄与する清く、正しく、健全な人間の育成」に従って、「広く教養を培い、生活文化に関する学習を通じて、職業又は実生活に必要な豊かな能力を備えた人材の育成」を教育目的とし、教養を身につけ、食物栄養学専攻では栄養士として、子ども生活専攻では保育士・幼稚園教諭として、専門性を生かして社会に貢献する人材を育成する教育を、短大として適切に取り組んでいることが認められました。外部評価の目的

は現状を把握して改善に資するために行われるもので、適格の認定をいただいて安心するだけでなく、今後より一層の教育効果を上げるために役立てたいと思います。
もうひとつは子ども生活専攻が十周年を迎えたことです。十年の節目として、二月二日に創設十周年記念保育実習・幼稚園教育実習・保育実践報告会を開催しました。

子ども生活専攻は平成十七年四月に創設されました。保育士養成課程から始まりましたが、一年後幼稚園教諭の教育課程が認可され、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の両方が二年間で取得可能な短大として教育を行って来ました。同じ学園内に短大附属すみ幼稚園と短大附属すみ保育園の両方があって、基礎実習や行事のボランティアなどを通して保育の現場を多く体験でき、実践的な教育が行えること、短大の被服教育の伝統を受け継いだ布を使った教材の制作など、他の養成校にはない特徴があります。また、十年続いているものとして、大学祭の企画の中でうまれた寸劇「三島レンジャー」があります。毎年学生が企画・上演するもので、学生の自主性を育んでいます。今では児童館や地域の催し物に呼ばれて演じることもあり、地域貢献の一つとなっています。
この十年で五百人を超える卒業生を社会に送り出し、多くが保育者として保育所・幼稚園・福祉施設で働いています。今では、そこで二年生の実習を指導する側にまわることもあります。
六十五年の短大の歴史の中で、社会の変化に合わせて建学の精神を実現するために、家庭科教員の養成から保育士・幼稚園教諭・栄養士の養成へと軸足を移して生まれ変わってきましたが、両専攻とも、新たな歴史を刻み、発展していくよう努力してまいります。



大学家政学科

短信



前回の「広報TSB」から半年が経ちました。この間の家政学科の様子をお伝えします。

九月八日から十一日まで、服飾文化専攻二年生の研修旅行が行われました。今年度は、富岡製糸場を見学した後、東京に移動し、アパレル企業や東京都立産業技術センター、東京国立博物館などで研修を行いました。服飾文化の多様な側面を実践的に学ぶことで、学習意欲が高まったとともに、大学時代の良き思い出となる四日間を過ごしたことと思います。

九月二十三日から後期の授業が始まりました。四年生にとつては最後の学期、そして、二年生にとつては三年生への進級をひかえた大切な学期です。年間の履修登録は四月に行っていますが、前期の成績によっては、後期の履修科目の修正や追加が必要になります。本学では、履修登録の際に担任がきめ細かくアドバイスをいたします。

十月二十四日、二十五日に開催された大学祭では、家政学科の学生たちは、服飾や食、栄養といった専門性を活かした展示・実演・販売を行いました。また、ファッションショーには家政学科から多くの学生が参加し、観客を魅了しました。

十月三十一日に健康栄養学専攻二年生の校外実習が行われました。まず、ヤクルト本社福島工場でHACCPに基づいた衛生管理などについての研修を行いました。そして、あづま果樹園を



見学して、りんごの栽培方法や流通についての理解を深めました。また、リングο狩りも楽しみ、美味しいリングοの見分け方も学びました。

十二月十二日には四年生の課題研究発表会が開催され、三年生の後期から取り組んだ研究の成果が発表されました。課題研究を通して身につけた研究力や仲間とのつながりは、卒業後も大きな支えとなることと思います。

三月十五日の卒業式も近づいて参りました。学生たちが進級、卒業、就職という新たなステージにスムーズに進めるよう、スタッフ一同、心を配って参ります。

大学生生活美術学科

短信



本年度は学科にとつて創設五十周年を迎える記念すべき一年でした。十一月には在学生の出品を含む大規模な記念展を開催し、学生、教職員共に伝統の重みを踏まえ個人の今なすべき事を自覚することとなりました。

さて、今年度下半期の出来事を振り返りますと、十月は二十三日に恒例の学科内コンクール（第四十二回）の審査・表彰が行われ、応募総数五十三点の中から最優秀賞や五つの学外のギャラリー賞の審査、表彰が行われました。二十四、二十五日には大学祭が開催され、これらの作品や各ゼミの展示・催し等がありました。月末には「第二回東北生活文化大学生生活美術学科教員展 in 盛岡二〇二五」、「日韓国交正常化五十周年記念二〇二五」韓美術交流展 in 仙台のいづれにも教員はもとより在学生の作品が出品されました。十一月は十七日には「三島学園香風会学業優秀者決定通知交付式」が行われ、奨学生からは力強い就学の抱負を聞くことができました。年が明けて一月二十三日の成人祝賀行事では、津軽三味線と和太鼓による公演が新成人の門出を祝福

しました。二十七日に大学での勉強の集大成ともいえる卒業研究の提出があり、

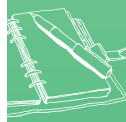
二月五、十日の日程で卒業制作展（第四十八回）がせんだいメディアテークの五階で開催され、例年にも増して、瑞々しい若い感性による多種多様な表現を見ることができました。十四日には「大和町まほろばの風景



七つ森展」の表彰式があり複数の在学生が表彰の栄誉に輝きました。三月に入り、例年通り十五日には卒業式が挙行され、四年生はデプロマポリシーにもある「地域の暮らしをデザインする力」を胸に、社会人として巣立つこととなりました。以上主な出来事を時系列に沿って記述しましたが、今期も毎月のように在学生、卒業生、教員による作品発表が相次ぎました。また、様々な美術の技術を活かした地域連携プロジェクトも行われ、学生は社会と密接に関係した「学び」を実践することとなりました。

短大生活文化学科

短信



短期大学部は今年、保育所実習が後期に変更されたり、七年に二度の外部評価の年を迎えたりと、あわただしい一年でした。後期の主な行事を振り返ってみたいと思います。

学科の行事

○十月二十四日・二十五日 大学祭

食物栄養学専攻はヘルシーレストラン、子ども生活専攻はファンタジールランドを行いました。

食物栄養学専攻



一年生の実習

○十月～十二月 栄養士基礎演習

二年生の実習

○六月～十月 給食管理実習Ⅲ(校外実習)

保育所、陸上自衛隊駐屯地、特別養護老人ホーム、小学校(前期六月)に分かれて、五日間の校外実習が行われました。

子ども生活専攻

二年生の実習

○八月～九月 幼稚園実習・保育所実習・施設実習

今年度は諸事情により、保育所実習と一部の施設実習が後期に行われました。例年に比べてタイトな日程になりましたが、頑張りを見せてくれました。

一年生の実習

○九月～二月 保育所基礎実習・幼稚園基礎実習・施設見学実習・子ども園見学実習

○二月二十五日・二十六日

附属ますみ幼稚園の園児を招いての活動(運動遊び)を行いました。短大と附属幼稚園が連携して、双方にとって有意義な教育活動を行っています。

○二月二日 創設十周年記念保育所実習・幼稚園教育実習・保育実践報告会

子ども生活専攻は創設十周年を迎えました。これを一つの節目として、今後も保育者として社会に貢献する人材の教育に努めていきます。

地域連携活動

地域への貢献も本学の使命の一つです。後期に行われたものの

ワクワクぶろじえくと

—地域連携活動—



「ワクワクぶろじえくと」は、各学科専攻の学生と教員がタッグを組み、専門分野を生かして「まちに住む人がワクワクできる地域連携活動」です。

●大江町の博覧会 SHAKE LAB



服飾文化専攻

服飾文化専攻の4年生が山形県大江町で開催された「大江町の博覧会 SHAKE LAB (シェイクラボ)」に参加。青芋をつかったプレスレットやストラップの手作りワークショップを出展しました。

●さかな丸ごと食育



食物栄養学専攻

虹の丘児童センターから子どもたち24名をお招きし、「さかな丸ごと食育」を実施。活動の目的は、魚を丸ごと1匹使って調理し、料理の楽しさや魚料理のおいしさを感じ、魚への興味関心を高めること。

●第12回「いい日いい汗 栄養まつり」



健康栄養学専攻

毎年恒例の「栄養まつり」。食事バランスチェックや健康相談、各ブースの補助、さらに食育の大切さを来場者にわかりやすく説明する食育ステージイベントなどを行いました。

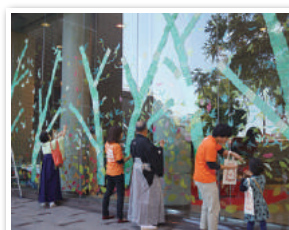
●とり+かえっこ2015



子ども生活専攻

快晴の下、虹の丘児童センターにおいて開催され、子ども生活専攻の学生がボランティアとして参加。「とり+かえっこ」とは、使わなくなったおもちゃの交換を中心にした「こどものまち」です。

●第36回仙台市泉区民文化祭



生活美術学科

ガラスアート「窓ガラスに竹林を描く」や「消しゴムはんこでトートバッグづくり」のワークショップを実施。さらに生活美術学科内コンクールの作品展示も行いました。

「ワクワクぶろじえくと」は、webサイトならびにFacebookページで最新情報をご覧いただけます。

ワクワクぶろじえくとweb

<http://www.mishima.ac.jp/info/wakuwaku/>

本学Facebook

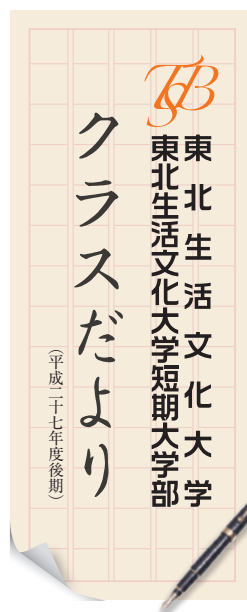
<https://www.facebook.com/mishima.tsb>

一部をご紹介します。

○九月九日 のびのびくらぶ「子どもと一緒にクッキング」(食物栄養学専攻)

○十月十日 小学生対象の「おさかな食育」(食物栄養学専攻)

○三月九日 のびのびくらぶ「短大のお兄さん・お姉さんと遊ぼう」(子ども生活専攻)



大学服飾文化専攻 1年

はやいもので、あっという間に前期の試験も終了し後期に入りました。今回の試験は大学に入学し初めての試験であり、皆不安だったと思いますが、各自それをのりこえて「安心した様子」が感じられました。私自身、週一回の担当講義(被服材料学)で毎週クラスのメンバーと顔をあわせていることもあり、入学当初とくらべて大分それぞれのペースが作られつつあることを感じる今日この頃です。また、個人面談をとおして、各自の夢や進路はもちろん、最近の悩み事などを聞いておりますが、いろいろなことをとおして卒業時には立派な姿になれるよう、見守りたいと考えております。

大学服飾文化専攻 2年

本年度後期の服飾文化専攻二年生は、学外で活動する機会が多くありました。九月の研修旅行では、大雨の影響も心配されましたが、無事に、関東地区の企業や博物館等にて有意義な研修をさせていただきました。また、仙台市内でもクリーニング工場での研修、プライダル衣装等の研修をさせていただき見聞を広めることができました。今後の学習や進路選択に生かしていただきたいと思います。さて、もうすぐ二年次も終了です。今後学業面では、専門科目の履修が増し、大学での学びの集大成である課題研究も始まります。卒業後の進路を見据えながら、あと半分しかない学生生活を充実させてほしいものです。

大学服飾文化専攻 3年

卒業まで一年となりました。二月下旬には「課題研究Ⅰ」の発表

会があり、十名の学生が半年間の研究の成果を発表しました。その発表に対して学長先生が全員に質問や意見を述べられました。学生は研究の難しさや厳しさ、面白さを感じたことでしょう。四年生になっても知的好奇心を高め、研究を続けてほしいと願っています。この春、就活が本格的にスタートします。東京への一泊二日の就活バスツアーがあり、服飾文化専攻では七名の女子が合同企業説明会に参加します。内定の道は険しいと思いますが、諦めずにチャレンジしてほしいです。二月には恒例のファッションショーがあります。青春を謳歌する学生の姿は美しいです。

大学服飾文化専攻 4年

四年生の後期の活動内容ですが、課題研究Ⅱを受講している学生たちによる研究発表会が、十二月十二日に行われ、大学四年間で学んだ学問の集大成を発表いたしました。その後、二月から就職内定者は、内定企業で研修を行っております。一方、未内定者は就職活動を諦めずに継続しております。また、学生たち全員が、残り僅かな単位の取りこぼしのないように、気を引き締めて授業に励んでおります。担任といたしましては、卒業する日まで、学生たちに対して心身ともに健やかに充実した日々を過ごせるようにサポートしていきたいと考えております。

大学健康栄養学専攻 1年

早いもので入学してから約年が経とうとしておりますので、現在の学生たちの様子を報告いたします。新年早々の講義でも出席状況は良く、しかもほとんどの学生が深刺とした顔つきに見え、見ているこちらが元気を貰い、新鮮な気持ちになったのを、つい昨日のように覚えています。月末現在においても、彼ら彼女らの言動等に大きな変化は見られず、いつも元気よく挨拶してくれる学生たちと接する度に嬉しく、「是非、この勢いで学期末の試験や課題に取り組んでいってください!」と、祈りつつ応援しているところであります。

今後共に、学園内で最も元気が良く且つ、絆強いクラスであり続けられるよう、支援していきたいと考えております。

大学健康栄養学専攻 2年

二年生の後期では、家政特別講義の学外研修で福島やクルト工場の見学や、三年生・四年生の臨地実習の報告会に臨みました。大学行事の家政特別セミナーでは管理栄養士として活躍されている卒業生から貴重なお話を聞き、次のステップに向けて少しずつ動き始めています。また、学友会活動に意欲的に参加する学生の姿も見られ、来年度は中心的存在としての活躍を期待しています。三年生になると、六月から学外実習が始まります。実習では、施設が自分に何をしてくれると「待つ」のではなく、自主性や自立性を持つて行動してほしいと願っています。

大学健康栄養学専攻 3年

三年生は、十月までの間に臨地実習における給食管理実習Ⅲとして二週間の校外実習を行いました。実習を通して様々なコミュニケーションを構築するとともに、給食運営に関する現場の実態を体験してきたと思います。

さらに、就職にも目を向けるようになり、栄養士・管理栄養士として活躍できる職種を意識し始めたようです。春休みには、公務員受験セミナーや東京ビッグサイトで開催される就職セミナーにも積極的に参加するようです。

一年後の国家試験合格に向けて、ひたむきに勉強に励んでください。

大学健康栄養学専攻 4年

十月には、臨地実習、栄養教諭実習を終え、学外での実習がすべて終了しました。十二月には、三年後期より取り組んできた課題研究の発表会、論文提出がありました。プレゼンテーションや文章を通して他者に伝える、意見交換を行う学びの場となったと思います。この課題研究成果のポスターを三月の卒業式当日に行いますので、ぜひご覧ください。

後期の授業も終わり、国家試験に向けてのラストスパートの時期になりました。また、就職については、内定率八十三%という状況です。クラスは、個々の学生の状況、進路が異なりますので、それぞれが目指す進路に向けて、サポートを行っていきたく思っております。保護者のみなさまもどうか温かく、時に厳しく支援をお願いいたします。

大学生生活美術学科 1年

一年生は、入学当初は初めての環境に加え様々な行事が続き、あわただしく過ごしていましたが、後期には落ち着いて大学生生活を過ごす様子が見て取れました。今までは異なる主体的な学びにも少しずつ慣れ、勉学や地域の活動などにも積極的に取り組みました。十月に開催された学科内コンクール(全学年任意参加)では最高賞である「最優秀賞」一名、「優秀賞」三名、一名が一年生でした。また、仙台市泉区民文化祭など学外においても、ボランティアなどとして地域連携活動に参加しました。次年度は基礎的な学習を土台にして個人々々が専門的な方向を決定していく時期に入ります。

大学生生活美術学科 2年

二年次は、昨年の七月から今年の二月までの間に、キャリア開発(選択)の授業で実際の就業体験を通して、自己の進路や就職について関心を高めるインターンシップを受講しています。受講先は、一般企業の接客販売、市民センターの文化祭の展示・運営、仙台市内五つのギャラリーが企画のアンデパンタン展の広報・展示と卒業生が経営する工房での体験。個人で一般社団法人の募集にエントリーし、内装デザインの仕事を経験するなどそれぞれに美術に関する分野で、大学で学んだことの実践を通して、生きた実学を習得しています。三年次からは、コースに分かれて学科専攻科目及び資格関連の科目が主となります。より一層前進することを願っています。

大学生生活美術学科 3年

コース制に分かれ活動してまいりました三年次は、いよいよ四月にはそれぞれのコースの専門を活かした卒業研究に向けて取り組んでいくばかりとなります。

今年度の活躍として学科内コンクールでは三年次の出品、受賞者が多く見られ、制作へ対する意欲的な姿が見受けられました。また、せんだいメディアテークでの合同ゼミナール展に於いてはゼミ長はじめ三年次が主となり、他学年を取りまとめるなど頼もしくも思えました。

四年次になると他にも教育実習や就職活動も本格的になつてま

います。これまで学んできた事を最大限に活かして個々に励んでくれることを期待し、最終学年として目標に向かって活躍して欲しいと思います。

大学生生活美術学科 4年

四年次後期は卒業制作展の制作・準備、就職活動等、慣れない学外での活動にも積極的に参加する姿が見られ、四年間の成長を実感することができました。二月五日〜十日には、これまでの研究成果を発表する場として、第四十八回生活美術学科卒業制作展がせんだいメディアテークにて開催されました。展示の様子は各報道機関でも取り上げられ、千百四十人の方にご来場いただきました。

就職状況は好転の兆しはあるものの、依然厳しい状況が続いています。就職の第一歩はまずは行動に移すことです。これからは社会に飛び立つ準備期間として、時間を有意義に活用してほしいと願っています。

短大食物栄養学専攻 1年

入学から九ヶ月が過ぎ、学生たちは栄養士を目指して充実した学生生活を楽しそうに送っています。夏から秋にかけては学内での勉学に加えて集団給食施設の見学、オープンキャンパス対応、そして大学祭専攻企画「ヘルシーレストラン」での調理業務の担当等、栄養に携わる者として有意義な体験を重ねてきました。また、今年一月には二年生の校外実習報告会に参加したことで、来年度の給食管理実習に向けて今後何をすべきか、先輩たちの貴重な経験と言葉から改めて自分を見つめる機会を得たようです。就活、校外実習と厳しい現実が待っていますが、挫けず・折れずにみんな乗り越えてくれることを期待しています。

短大食物栄養学専攻 2年

先日、二年間の集大成である校外実習報告会、及び最後の期末試験を終え卒業間近となりました。「栄養士免許を取得する」という志を胸に迎えた入学式から二年が経とうとしています。顧みれば、学生から社会人への階段を昇る一人一人を、どちらかというと後

ろから押すのではなく、段階毎に踊り場から「早くここまで昇っておいで」という姿勢で接してきたように感じます。そして今、最上段まで辿りついた皆を笑顔で社会へ送り出したいと思っています。

短大子ども生活専攻 1年

短大生活で最も大きな行事の一つ、大学祭を初めて経験しました。八十周年記念棟が「ファンタジーランド」に大変身。海をテーマにした装飾、輪投げ、ボウリング、魚釣りなどの楽しい遊びのコーナー、そして、劇「三島レンジャー」など、すべて自分たちで考えて作り上げました。当日は、地域の子どもたちがたくさん集まり大盛況。連日、仲間と共に悩み、考え、励まし合いながら準備を進めてきたからこそ、終わった時の充実感と達成感は何ものにも代え難い貴重な経験となりました。来年度はいよいよ本実習がスタートします。基礎実習で得た経験を生かして、夢に向かって突き進もう！

短大子ども生活専攻 2年

保育士資格及び幼稚園教諭免許取得に係る今年度の実習は、諸般の事情により例年とは時期が大幅に変更となり、また、個々人により実習先の都合で二月末までずれ込みました。それらは学生生活上様々な面で大きな試練にもなったことと思います。それにもめげず全ての実習をやり遂げ、また、連日の補講に耐え奮励努力いたしました。通常であれば毎週水曜日の昼にホームルームを行なうところでしたが、実習で出られない学生が多かったため、担任からの連絡は、毎週月曜日二斉メール送信で行ってきました。こうした合間を縫って就職希望先の見学や面接、試験等の就職活動にそれぞれ奔走してきました。その努力が結実し全員が社会人として巣立っていった欲しいものと願っています。



大学家政学科 教授

川村 奎子

専門分野: 調理科学 食文化

主な担当科目: 基礎調理学実習、応用調理学実習、食文化論



本学の前身、三島学園女子大学の時代から47年間、家政学の食物分野での研究活動が続けてきました。日本人は何を食べ、どう暮らしているのか。おいしい健康な調理への道筋を模索し、日本の文化を知ることが課題です。

これまで幕末から明治期にかけての羽州村山地方(山形県尾花沢市)の豪農(名主職)「鈴木宗尹の日記(32年間)」に記された食事献立内容を集計分析し、先人の美食家ぶりに驚愕しました。一方、同時期の宮城県七ヶ宿町で酒屋を営んでいた家に残る酒造りの巻物「酒造傳法」の齣字を行い、内容解析をして、美味しい酒を造るには雑菌を混入させないという南部杜氏の秘伝を知ることができました。また、山形県大石田町「町立歴史民俗資料館史料集 別冊 斉藤茂吉病床日記」での茂吉の摂取食事内容への協力。山形県庄内地方(鶴岡市・三川町)における食の継承調査などを行ってきました。

郷土食の研究では、日本調理科学会特別研究に参加、宮城県における「こめ」「まめ」「さかな」の調理状況と意識調査を行いました。在仙大学の調理科学系の教員とともに、行事食・儀礼食の研究をし、宮城県の正月料理の特徴-雑煮およびもち料理-について最近の状況を調査報告しました。また、東日本大震災直後の被災地(南三陸町)での食事状況調査や仮設住宅での料理教室の活動(味の素プロジェクト)に献立立案から参画し、学生と共に何度か、被災者への調理指導や食中毒を防ぐための啓発を行ってきました。

おいしいと感じる食事の摂取は、身体的にも精神的にも生きる糧になります。いつの時代にあっても調理と食べるひとと地域の関係はとても奥深く、興味は尽きません。

大学家政学科 講師

福岡 敦子

専門分野: 臨床栄養学

主な担当科目: 臨床栄養学、臨床栄養学指導論、臨床栄養学実習、臨地実習



臨床栄養学は、おそらく私たちの目にするところ全部からの影響をうける学問だと思われます。もちろん、気温や環境、遺伝子からも影響を受けますし、時代による背景も大きなものと思われます。

たとえば、自動車保有台数と糖尿病患者数の推移は有名です。

1960年台頃より自動車台数が増えるのに伴い、糖尿病患者数も激増しているのが現状です。

自動車の普及によって今まで歩いたり自転車で行っていたような近距離でも自動車を使うようになっていないでしょうか？

高齢者の増加に伴い、認知症が問題となっていますが糖尿病は認知症発症とも大きな関連があると言われています。これも大きな時代の流れなのかもしれません。

さて、『江戸買物独案内』という本が文政7年に刊行されています。概要では、この本には当時の様子が書かれているとのことで、疾病を想像させるものがあります。病氣と食事や食べ物とはとても関連があることがわかります。

話を戻しますが、高齢者になると軟らかいものを食べる方が多くなります。咀嚼能力が衰えるわけです。咀嚼は、歯の欠損状況と大きく関連しています。歯の欠損の多い高齢者は、アルブミンが低くなることはご存知と思いますが、握力は小さくなり、敏捷性が低くなると言われています。つまり、歯は危険回避の役割をしているわけです。

新しい発見ですね。

このように、臨床栄養学を勉強していくと、新しい発見や知識をえることに結びつくことが多いのです。これからも、新しい発見を得るためにも臨床栄養学と向き合っていきたいと思います。

私の研究

短大生活文化学科 食物栄養学専攻 講師

永沼 孝子

専門分野: 栄養学、食品学

主な担当科目: 栄養学、食品学、ライフステージ栄養学、栄養学実験、食品学実験



もう20年余りタンパク質の構造と機能について研究をしています。

タンパク質といってもその種類は無数に存在するわけですが、私が取り組んだのはレクチンというタンパク質です。レクチンは特定の糖や糖鎖を認識して結合する性質を持つタンパク質の総称で、動物から菌類に至るまで、あらゆる生物に存在しています。細胞の表面には特徴的な糖や糖鎖がありますが、種々のレクチンはそれらと特異的に結合します。注目すべきは、細菌などの表面にある糖を認識して攻撃する、あるいは結合・凝集することで免疫細胞を活性化する生体防御機能です。

私は、テーマのひとつとして食用植物に含まれるレクチンの性質について研究を行ってきました。植物レクチンはヒトにも時として害をなす場合があります。テレビ番組で取り上げられ一時話題になったインゲンマメダイエットで、多くの方が消化器疾患症状を訴えた一件も、インゲン豆に含まれるレクチンが小腸上皮細胞に結合して壊してしまったことが原因の1つと言われます。豆類はナマで食べると危険です。

このようにレクチンは主に抗栄養素として捉えられるのですが、摂取量によってはヒトの体内で有益な機能を発揮することもあることが分かってきました。その1つが、食品機能性成分の吸収促進です。数種の植物レクチンは腸管に作用してポリフェノール類の腸管吸収を促進します。小腸上皮細胞の糖鎖に作用して構造を変化させ、吸収能を増加させるものと考えられます。まさに、モノは使い様です。

これらの実験で、数kgの試料から、あらゆる手段を駆使してやっと数十mgのレクチンを取り出して純化し、それを細胞やマウスに投与して観察するという限りなく地道な作業を積み重ねて来たお陰で、本人の性格も地味で堅実になったと思っているのですが、周囲の人は誰も認めちゃくれません…。

短大生活文化学科 准教授

針生 隆

専門分野: 臨床心理学(カウンセリング)

主な担当科目: 教育相談、臨床心理学



私が、恩師の勧めもあってカウンセリングの道に入ってから約20年が経過しています。

心理職(カウンセラー)と言っても、まだ我が国においては、国家資格の心理職は存在しません。公的資格のような「臨床心理士」も民間法人の資格です。私は「臨床発達心理士」と「学校心理士」の資格を有していますが、胡散臭い資格もあるようです。このような乱立状態ですが、やっと2017年度から国家資格としての「公認心理師」が誕生します。

さて、私の研究領域はおのずから「臨床心理学」となり、精神医学に依拠し、「人の生涯にわたって起こり得る、様々な兆候・問題・障がい」を包んだ視点から、人間の心的働きを解明を行い、その具体的な発達支援方法を研究する領域」となり、研究の社会的な還元が日進月歩求められる領域と云えます。この理念を踏まえ、学生相談所のスタッフとして、微力ながら学生、先生方の支援に当たらせていただいております。

これまでに支援した事例は、不登校、家庭内暴力、リストカット、摂食障害、発達障害、うつ状態、自殺念慮、虐待など、多岐にわたります。特に3・11大震災で被災し、尊い家族を失った学生の支援は、「悲嘆カウンセリング」のエピソードを参考にし、支援に当たっていますが、まずは「寄り添う」ことが精一杯です。

最近の研究状況は、「ナラティブ・セラピー」の実践・理論を研究し、それを視座に「カウンセリング」を実践しています。臨床心理領域では、心理テスト、心理療法が数多くあり、そのツールを使用し、心の支援を行うのが通例で、昨今は「認知行動療法」が人気があるようです。どんな療法であれ言葉が必須であり、クライアントを分析するのではなく、理解するという「無知の姿勢」、「教えてもらう」ことを心に銘記しています。感謝をもって。

生活美術学科創設五十周年

一昨年から懸案の五十周年企画は記念展開催と記念誌の発行ということになりました。二〇二五年十一月二十日から二十五日までせんだいメディアテーク五階abcギャラリーにおいて、出品総数百五十点、出品者百四十三名の生活美術学科始まつて以来の質の高い、大規模な展示となりました。来場者全員に記念誌を配布し、早坂貞彦名誉教授他歴代、現教員の作品、卒業してすぐの社会人から三島学園女子大学時代のキャリアある作家までの展示は千四百八十六名の観覧者に感銘をもたらしました。参加作家のギャラリートーク、卒業生千葉里佳氏によるダンスパフォーマンスも彼女の身体から発するアートの魅入られました。メディアテーク五階エスキューラカフェで行われた記念パーティーにも沢山の来賓の方々と三島学園関係者、卒業生が参加し百名を超える盛況となりました。自作を展示し、さらに友人知人、教員らと交流し満足した様子のOBOGの笑顔の先に彼ら彼女らの未来と生活美術学科の未来が覗えていました。



私立大学等教育研究活性化 設備整備事業

教育機関が、各教育分野に関する技術革新や多様化複雑化する社会状況に柔軟に対応するために、時宜を得た教育プログラムの構築、刷新を行うことは当然のことです。本学でもこのことについて都度見直し、新たな時代に即応した教育を実践しています。平成二十七年の大きな取組としては、文部科学省の「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に採択された教育の質的転換を図る二つのプロジェクトを挙げることができます。一つは大学の「モノづくり」に係る事業で、染織分野の最先端の織り機、プリンターと各種ソフトウェアを導入し学科を越え企業とも連携したアクティブラーニングを展開します。もう一つは短大の教育インフラストラクチャー整備事業です。グローバルワークやアクティブラーニングを容易にする電子黒板、タブレット端末、無線LAN等のハードウェアと、積極的な授業への参加を促すクリックシステム等のソフトウェアを配備します。

COC+「みやぎ・せんだい協働教育 基盤による地域高度人材の育成」

本学は「地域の暮らしをデザインする力を育む大学」を標榜し、地域に密着し貢献する大学として様々な活動を推進してまいりました。これらの一環として、平成二十七年からは文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生事業」に採択された本育成プロジェクトの参加校としてその責務を果たしています。このプロジェクトは当地域にある十二の高等教育機関がそれぞれ有している教育プログラムを相互に単位互換し、より実効性の高い地域人材の連携型の育成プログラムの構築を目指すものです。具体的には、同地域内の企業が抱える課題を組み上げ、学生や職員が参画する課題解決型の教育プロジェクトとして立ち上げます。このプロジェクトへの取り組みは、企業側にとつても経営課題の解決や新たな事業の創造にも繋がり、将来への経営革新にも期待ができるものとなります。プロジェクトは向こう五年間の予定でまだ走り出したばかりですが、現在本学では教育・研究の根幹である生活文化に係る「知」を有効に活用した、実践的な学びの場を計画しています。

こばたてるみ氏講演会

平成二十七年十一月九日に、学校法人三島学園公開講座東北生活文化大学講演会を開催しました。講師にこばたてるみ氏（株式会社

社）よくスポーツ主宰、公認スポーツ栄養士）をお迎えし、「アスリートに学ぶ食事術」と題した講演をお願いいたしました。当日は、大学健康栄養学専攻と短大食物栄養学専攻の学生と教職員、一般参加の方を中心に約三百名が受講しました。こばた氏はプロアマチュアのスポーツ選手の食事や栄養の指導、子どもたちを対象にした食育活動など、食とスポーツの分野で幅広く活躍されております。講演ではこれまで携わった仕事や事例ご自身の経験を交え「食事の、食と、色について」「たき火理論」「食事のリズムと質」の三つのポイントを中心に、分かりやすくお話しされました。約九十分の講演終了後には、会場からの質問にも丁寧にお答えいただきました。こばた氏の講演を通じて、受講者がそれぞれの立場でこれからの食事や栄養・健康について改めて考える機会になったようでした。



事務職員紹介



大学教務課
村上 幸子

昨年九月より大学教務課へ異動して参りました村上です。主な仕事としては、進路や授業に関わる教育指針の作成や成績に関する事務処理、各種窓口業務などを行っています。

新しい環境で不慣れな点もございますが、皆様のお役に立てるよう現在適進中です。仕事を通じて、学生たちのキャンパスライフがより充実できるよう日々、勉強しております。趣味は卓球で、休日には試合観戦をして楽しんでおります。好きな選手は石川佳純さんです。また、一生懸命努力する人が好きです。

PHOTO ALBUM

(平成27年度後期)



小・中学生のための ファッションカレッジ

服飾文化専攻による服飾講座。今回のテーマは、「手芸にチャレンジ」。模様をつける方法のひとつである「刺しゅう(クロスステッチ)」に、小学生14名が参加し、挑戦しました。



革deBOX

虹の丘児童センターにおいて、ワークショップ「革 de BOX」を開催し、講師をレザークラフト同好会の学生たちが務めました。



親子クッキング教室 「おかあさんと作ろう」

三島学園子育て・家庭支援センター「のびのびくらぶ」において、「親子クッキング教室」開催。短大の食物栄養専攻が、クッキング教室、子ども生活専攻が託児スペースを担当しました。



みやぎ県民大学

平成27年度みやぎ県民大学「大学等開放講座」を開催し、一般の方24名に参加いただきました。テーマは、「生活美術の魅力／オリジナルエコバッグをつくらう～版画・染色の技法を使って～」。



和紙カレンダー

版画セミナーが手書き和紙工房潮紙の塚原英男さんとコラボしたカレンダー。サンモール一番町アーケード街において開催した「仙台・杜の都のクラフトフェア」で好評を得て、完売しました。



TSB公開講座

第1部は、栗山孝雄准教授による「これでよいのか？日本の若者の食事」。第2部は、川又勝子准教授による「仙台の木綿染め」。両講座とも受講者から好評でした。



佐藤正樹氏講演会

「キャリアサポート」において、山形県寒河江市にある佐藤繊維株式会社の代表取締役佐藤正樹氏をお招きして、「成長する社会人」と題してご講演いただきました。



マナーセミナー

「キャリアサポート」において、第一印象研究所代表の杉浦永子氏をお招きして、「リクルートマナーセミナー」を開催。今回のテーマは、押さえておきたい基本のビジネスマナー。



成人祝賀行事「閃雷」LIVE

毎年恒例の成人祝賀行事を開催。今回は、津軽三味線と和太鼓ユニット「閃雷(せんらい)」をお招きしてのライブ演奏。軽快なMCと迫力ある圧倒的なステージで学生たちを魅了し、大興奮。

就職支援センターから

◎また、就職活動の採用選考開始時期が6月1日に変更になりました！

平成29年3月卒業予定の大学4年次生と短大2年次生の採用・就職活動については、卒業前年次の3月1日から企業が求人のための広報活動を開始し、それぞれの企業が個別あるいは合同で学生を対象にした説明会を開催します。この時期から学生たちはリクルートスーツを着て企業説明会に出かけることになります。そして、卒業年次の6月1日からは採用選考が開始され、10月1日から企業は学生に内定通知を出すことになります。

注意すべきことは平成29年3月卒業予定者で就職希望する学生は、前年度と違い選考試験開始時期が8月1日の開始から6月1日に変更になったことです。2か月程前倒しになりました。これにより、6月は授業や実習等もある中で、採用選考が開始されることにもなり、本当に多忙になることが想定されます。一層、早く就職に向けた取組みを図ることが必要になります。筆記試験(SPI) 対応のために基礎学力を身につける、面接で対応できるマナーを身につける、同時に自分の希望する企業・職種等を探す活動等をするようになります。まずは、学生と保護者が話し合い共通理解を図ることから就職活動をスタートしてみてください。

就職は自分の人生を決める上でとても大切なものです。就職支援センターはその手伝いをするところです。早いということはありません。求人情報(百周年記念棟1F就職相談室)の閲覧、進路の相談などにぜひ来室してみてください。

東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、大学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結び懸け橋となることを願って命名しました。

※「レ・ペルト」…仙台平女物袴地使用によるコートとサックドレス(三島学園資料室収蔵)

広報TSB 第8号

〔発行〕平成28年(2016年) 3月1日

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2

TEL 022-272-7520 FAX 022-301-5602

ホームページ <http://www.mishima.ac.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

Twitter https://twitter.com/mishima_tsb